

加工用ホウレンソウにおける混合堆肥を活用した低コスト施肥法

元肥を混合たい肥に代替することで、肥料費の削減が可能となる

背景・目的

- 消費者の安全志向により国産の加工用野菜が見直され、栽培面積は増加傾向にあります。
- 加工用野菜は、生食用と比較して販売価格が安いため、低コスト化が求められています。
- このため安価な混合堆肥を活用した低コスト施肥法を開発しました。

成果の内容

- 基肥を混合堆肥800kg/10a及び硫安40kg/10aで代替しても、概ね慣行栽培と同等の収量が得られます(図1)。
- 混合堆肥は窒素以外にもリン酸、カリウムも含まれてますので、肥料のコストを減らす事ができます。

表1:区の設定

区名	牛ふん堆肥	混合堆肥	Kg/10a			備考
			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
慣行区	3000		30	25	23	エコベジ'352(115kg)、追肥1号(56kg)、硫安(24kg)
混合堆肥区	3000	800	30	22	26	混合堆肥(800kg)、硫安(基肥40kg、追肥58kg)

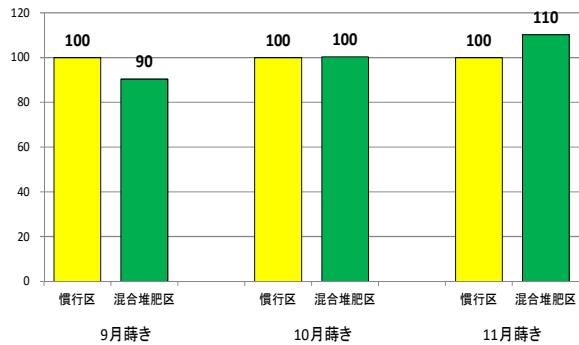
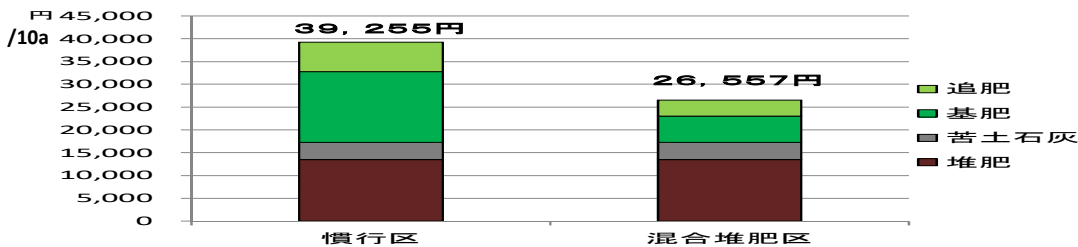


図1:ホウレンソウ収量(調整重)の慣行区に対する比率

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 混合堆肥で基肥の一部を代替した場合、慣行栽培と比較して10a当たり合計1万円以上(肥料費の32%)の削減が可能となります。



- 普及対象地域・面積 西諸地域 300ha

留意点

- 混合堆肥は製品名”ニューコスモス有機”での結果です。他の堆肥を施用する場合は、肥料成分等を勘察して使用してください。
- リン酸、カリウム過剰集積を防ぐため、土壌診断を定期的実施し、集積が少ないほ場で導入してください。

関連普及技術カード：平成28年前期 番号4、関連事業名六次産業化に対応した大規模露地野菜における省力・低コスト・安定生産のための技術開発：(県単)

研究期間：平成25年～27年